

アカマダラハナムグリ

コウチュウ目コガネムシ科

Anthracophora rusicola Burmeister

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 情報不足

選定理由

本種は猛禽類、特にハチクマの巣内を発生場所とすることが確認されているが、ハチクマ自体が石川県では準絶滅危惧種に指定されていて減少傾向にあり、その巣に依存している本種もハチクマと同様に減少が懸念される。

形態

体長約20mm。和名の由来となる赤褐色と黒色のまだら模様を持つことが大きな特徴である。

国内分布

北海道南部、本州、四国、九州、屋久島に分布する。

県内分布

県内では、小松市と金沢市からの記録がある。1990年以降記録がなかったが、富沢（2007）により県内から17年ぶりに記録された。

生態

本種はこれまで、樹液に訪れた個体がまれに採集される程度であった。ところが最近になり、本種はクマタカやハチクマなどの猛禽類の巣、特にハチクマの営巣中の巣を好んで発生場所としていることが明らかになった。春に本種のメスが日本に渡来してきたばかりのハチクマの巣に産卵、孵化した幼虫は巣内のペリットなどをエサにして成長し、夏頃には新成虫となって出現する。成虫越冬をするようであるが越冬場所などはわかっていない。

生息地の条件

ハチクマやクマタカが営巣、繁殖のできる、健全な自然の残された里山環境であること。

生存の危機

宅地開発やさまざまな公共事業による里山環境の破壊や、薪炭林として利用していた里山林の荒廃は、ハチクマなどの猛禽類が生息できなくなるばかりではなく、その巣を発生場所として依存している本種の生存さえをも危うくする。(A)

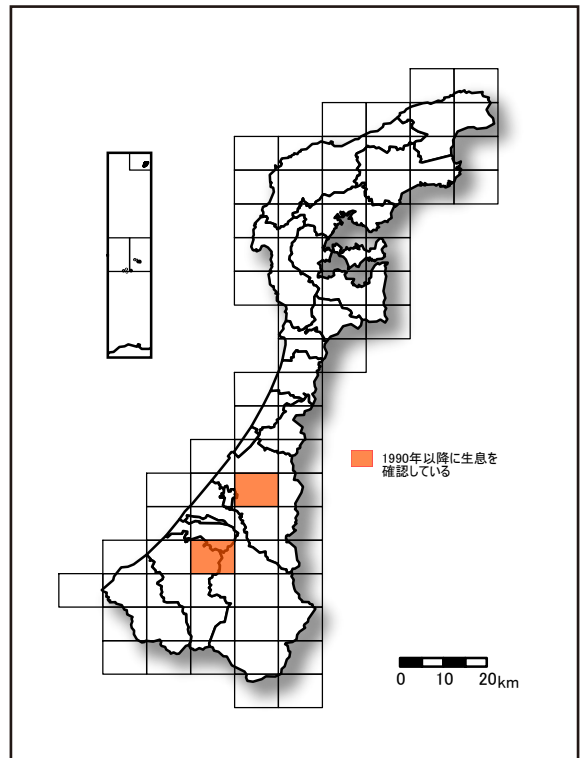
参考文献

榎原 寛・阿部 学・新里達也・早川浩之・飯島一浩 2004. ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, (148) : 21-23.

富沢 章 2007. 小松市におけるアカマダラハナムグリの記録. とっくりばち, (75) : 61. 石川むしの会.



標本提供者: 牛島釈広



県内の分布